

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2017 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No. - (事務局用)	タイトル 室蘭に新たな観光客を呼び込むためのアイデア	自治体名 北海道 室蘭市
アイデア名 (注1) (公開)	TTS(Tapas Train System)		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2017 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報

チーム名 (公開)	味わい		
チーム属性 (公開)	<input type="checkbox"/> 1. 市民によるチーム	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 学生によるチーム	<input type="checkbox"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム
メンバー数 (公開)	2名		
代表者情報	氏名 (公開)	奥山 浩暉	

**(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2017\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2017 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin\_padit\_cog2017@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：  
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。  
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、や知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

## 2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの論拠、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

### （1）アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれが、何を、どこで、いつ、どのように、する公共サービス（活動）なのか、これらの要素を入れて**内容そのもの**をわかりやすく示してください。**1 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

外国人観光客が函館～登別間を移動中に利用できるサービス。

実施期間は外国人観光客が多い4月、7月、10月。

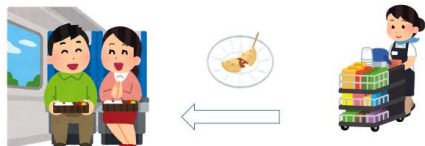
車内で胆振地域の特産品を食べることが可能。

乗り降りができるように車内でフリーパスへの切り替えが行えるシステムを導入。

既存の北海道フリーパスへの切り替えを考えているが要望に応じて1dayのフリーパスなども導入する。

なくしくし、かつ利用区間、利用期間などの調整がしやすいようにフリーパスはICカードで発行する。

以下にイラストでシステムの説明



観光客は車内で照搬の特産品を楽しめる

車内販売のカードに乗せ料理を提供



フリーパスとは、  
JR北海道内の在来線特急列車の普通車自由席及びジェイ・アール北海道バス（一部路線を除く）が指定期間の前乗り降り自由なきつぷフリーパスへ切り替えるメリット  
フリーパスを所持していることで自由に乗り降りが可能になる。そのため、気軽に途中下車できるようになる。また、所持している切符を用いることで切符の金額が割引されるので損はしなくて済む。



タパスとは、  
スペインの居酒屋兼軽食堂で提供される小皿料理の総称  
一口次の料理を串枝に刺したりパンに乗せ、手でつまんで食べられるように作られている。そのため会話をしながら食事をするのに向いている。無料を出すところもある。  
タパスのメリット  
料理を自分の目で見るうえに、実際に食べてみることができる。量が少ないため、気に入ったものはもっと食べたいという欲求が生まれやすい。

座席の前のネットに入っているパンフレットから、料理や食材の詳細を知ることができます



パンフレットを持ち運ぶのが面倒くさいという方は記載されているQRコードからWebサイトへ



パンフレットとWebサイト両方からお店の位置を知ることができます



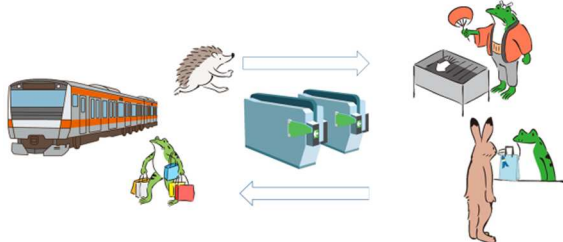
片道切符では途中下車ができないためフリーパスへの切り替えを行う必要があります



繰り返し利用されることを想定し、フリーパスは利用しやすいICカードとして提供することを考えています

購入区間によってデザインが違うカードが手に入る

フリーパスによる各駅への自由な乗り降りで気軽に観光！



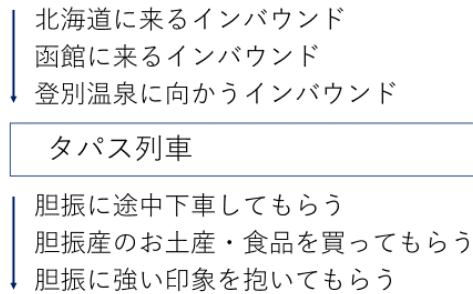
## (2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアなのかの理由付け）について、それをサポートするデータ（統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの定性データ）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつ、2 ページ以内でご記入ください。データ類は出所を明らかにしてください。

平成 28 年度の北海道観光入込客数は 54,660,000 人[1]である。それに対し函館市は 5,607,000 人[2]、登別市は 3,851,917 人[3]となっている。今後函館新幹線が長万部までくると二都市間の結びつきがより強まることが想定される。ゆえに、私たちは室蘭市や伊達市に観光客を途中下車させることによって胆振地域の観光産業や飲食店の売り上げの活性化を図ることができると考えている。

参考として提案内容に関する機能展開を以下に記載する。

### 機能展開



### 参考文献

- [1] 北海道観光入込客数調査報告書 <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/irikomi.htm>
- [2] 来函観光入込客数推計 <http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2015062500021/>
- [3] 登別市の観光客入込数 <http://www.city.noboribetsu.lg.jp/docs/2013042600099/>

前提となる制約条件は以下の通りである。

- 函館～室蘭方面の電車を利用するインバウンドがターゲット
- フリーパス利用者は該当区間内での乗り降りが自由である事
- 車内での調理は困難であるため、車外で調理したものを車内に搬入する
- タパスのレシピの提供等で駅周辺の飲食店の協力

4 月、7 月、10 月が外国人観光客の多い時期であるためこの期間にサービスを行う。

以下に根拠となる統計データを記載する。

#### 2017年 訪日外客数（総数）

出典：日本政府観光局（JNTO）

\*本表で、通年の月別・市場別の推移が確認できます。伸率は前年同月比を表しています。

単位：人数(人)、伸率(%)

	1月	伸率	2月	伸率	3月	伸率	4月	伸率	5月	伸率	6月	伸率	7月	伸率	8月	伸率	9月	伸率	10月	伸率	11月	伸率	12月	伸率	累計	伸率
総数	2,295,668	24.0	2,035,771	7.6	2,205,664	9.8	2,378,970	23.9	2,294,717	21.2	2,346,442	18.2	2,681,518	16.8	2,477,428	20.9	2,282,100	18.9	2,585,200	21.8					23,791,500	18.3
アジア計	2,019,799	25.3	1,804,729	7.7	1,838,801	10.9	2,126,452	22.8	1,957,787	23.2	2,035,241	20.1	2,324,094	18.0	2,193,106	23.4										

出典：日本政府観光局 [https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor\\_trends/](https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor_trends/)

### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大きな規模とその現実的な調達方法（制約がある場合にはその解決策を含む）、アイデアの**実現にいたるプロセスとマイルストーン**等、アイデア実現までの大きな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

サービスを実現するのは JR 北海道。

パンフレットや Web サイトの運営に各市町村の観光協会の協力。

タパス提供用のカートは既存の車内販売用のものを流用。

新たに調理を行う人材の確保。

調理場所の確保。

必ずしも必要ではないが地域住民による観光客の案内サービス。

食材の確保は胆振地方の各卸売市場で購入する。

食材の流通、搬送ルートの確保。

タパスの料金は無料もしくは切符の料金に組み込む。

サービスの維持費は JR 北海道並びにアイデアを利用している市町村が負担する。

## コンポーネントデザイン

